

特集

写真教材「であい」 ついに完成!



『であい:7人の高校生の素顔』発行

TJFは、海外の中高校における日本語教育をおもな対象とする写真教材『であい:7人の高校生の素顔』を発行しました。

ことばを学ぶ目的のひとつは、そのことばを使って人とコミュニケーションをしながら、相手を理解し、自分を理解し、そしてお互いの関係をきずいていくことだと思います。他者や自分への理解を深めながら双方向の関係をきずく過程を体験できるような教材をつくりたい、それが「であい」制作の出発点でした。

「であい」では、実在する日本の高校生7人が主人公として登場し、彼らの生いたち、大切なこと、将来の夢、家族や友だち、住んでいる場所、今の生活などを、写真や文章、さらにビデオで紹介します。日本語を学ぶ生徒たちは、7人の高校生に出会い、彼ら一人ひとりへの理解を深めながら学習を進めることができます。

今号は、特集の枠を拡大し、「であい」をご紹介します。



シリーズ

素顔の高校生⑩ p.16
のびのびと自由に撮っていきいたい。

TJFの事業 p.14

3年目に入って多角化するネットワークの活動——高等学校韓国朝鮮語教育ネットワークの現在

事業報告(2001年10・11・12月)

今号は、写真教材「であい」の発行を記念した特別号です。シリーズ「ことばは楽しい」「見る聞く考えるやってみる授業」はお休みさせていただき、特集の枠を拡大してお送りします。次号第54号は、通常通りの誌面構成でお届けする予定です。

「であい」の構成と内容

写真教材「であい」は、7人の主人公を紹介する素材であるキット(写真シート・ブックレット・CD-ROM)と、その素材を日本語の授業で使うための情報を提供するホームページからなる教材です。

著作権・肖像権

本教材に収録されている写真(一部の写真を除く)の著作権は、撮影者とTJFとの契約にもとづき、TJFに帰属します。

であいキット

写真シート(A3判・カラー・192枚)



プロフィール



1日の生活

写真シートは「プロフィール」と「1日の生活」の2部構成になっています。「プロフィール」には主人公のおたち、家族、友だち、住んでいる場所、熱中していることなどが盛り込まれています。いきいきとした写真をつづじて、彼らの素顔とある1日の生活の様子を見ることができます。



各写真シートの裏には、表の写真のモノクロ縮小版、写真シート番号、タイトル、キャプション(日・英)、テーマおよび主人公のマークが印刷されています。裏にこれらの情報があるので、教師は生徒に写真を見せるときも、写真の内容やタイトル、キャプションを参照することができます。タイトルおよびキャプションはブックレットに掲載されているものと同じです。

ブックレット(A4判・308ページ)



■ 主人公のメッセージとマイ・ストーリー

海外の高校生に向けた主人公一人ひとりのメッセージと、それぞれのマイ・ストーリーが日本語と英語で書かれています。マイ・ストーリーには、彼らのおたち、家族、友だち、住んでいる場所、熱中していること、将来の夢などが語られており、彼らを知るよい材料になっています。また、彼らをとりまく人びと(家族や友人など)が、彼らをどう見ているかについても書かれていて、主人公たちの姿をより立体的なものにしています。

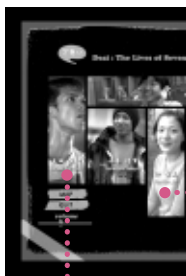
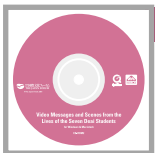
■ キャプション(写真の説明)

タイトルおよびキャプションは写真シートの裏に掲載されているものと同じです。写真シートと同様、「プロフィール」と「1日の生活」の2部構成です。該当する写真のモノクロ縮小版が掲載されているので、写真のイメージをつかみながらキャプションを読むことができます。

■ テーマ表

テーマと写真の相関関係を一覧表にまとめました。テーマごとどのような写真があるか探すことができます。

CD-ROM



また主人公本人をはじめ、主人公の家族、主人公が所属している学校関係者、主人公の友人や関係者の肖像権の使用については、TJFが文書もしくは口頭によって当該関係者から了解を得ています。著作権・肖像権に関する法的な責任はTJFが負っています。なお、7人の主人公名はすべて仮名です。

本教材に収録されているすべての写真、動画および文章は、教育目的に使用される非営利活動に限り、利用者は無償でこれを使

用することができます。ただし、非営利、営利を問わず出版物およびウェブサイトを使用する場合には、事前にTJFの許可を得る必要があります。

「であい」教材制作にあたっては、多くの方々や機関にご支援ご協力を賜り深く感謝申し上げます。とりわけ本プロジェクトに多大な助成をいただいた米日財団には厚く御礼申し上げます。

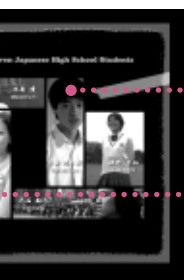
(OS:Windows/Mac対応・2枚)

CD-ROM 1 写真データファイル(約1,300枚)



CD-ROM 1には、写真シートに使用されたすべての写真に加え、それらを補足する写真や、TJFが国内の高校生を対象に行っている写真コンテスト(p. 11コラム参照)の作品から選んだ写真など、計1,300枚以上の写真をおさめました。

CD-ROM 2 7人の主人公のビデオメッセージと生活場面



CD-ROM 2には、7人の主人公から海外の高校生に向けたビデオメッセージがおさめられています。このメッセージは、友だちに話しかけるように自然な日本語で語っています。彼らの話し方や動きを見ることで、出会いの臨場感が高まります。また、彼らの生活の一部も垣間見ることができます。「わたしの好きな場所」には、主人公に身近な家の周りや学校の様子が収録されています。「わたしの世界」では、それぞれがうちこんでいること、大切にしているものを取りあげました。

であいホームページ



<http://www.tjf.or.jp/deai/>

教師のためのサポート情報

■ 授業計画と授業案

日本語の授業の参考資料として、授業計画および授業案と、それに付随するレファレンスやアクティビティを掲載しています。

- ・TJFが提唱する人間理解と文化理解に重点をおいた授業案
- ・日本語教科書と「であい」を併用した授業案
- ・各国の日本語教師による授業案

■ 参考資料集(資料・データ・実物教材)

参考資料集は、授業案を実際に使ううえで必要な資料やデータです。生徒が直接参照することもできます。イラストや写真、関連するホームページのアドレス、さまざまなデータを示すグラフや表のほか、主人公の学校の案内パンフレットなど実物教材も含まれています。

■ ミニ事典

ミニ事典は、写真に写っている事物やキャプションなどの文章を理解するために必要な文化、社会、教育制度などを事典ふうの説明したものです。イラストや写真なども提供しています。

■ 語彙リスト

メインの写真に関連する語彙のリストです。日本語(漢字、かな)とその英訳を併記してあります。

- ・あいうえお順リスト
- ・アルファベット順リスト

▶▶▶ であいキット



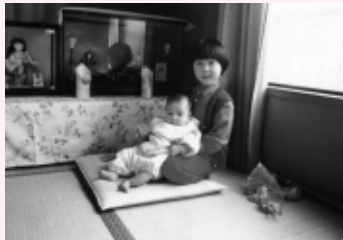
7人の高校生とのであい

主人公



水島 優
みずしま ゆう
神奈川県横浜市在住。のんびり屋で楽観的。前向きで向上心が強く、好奇心がおうせいです。写真を撮るのが大好きです。とくに人の写真を撮るのがおもしろいです。将来は、自分で写真を撮り、文章を書くジャーナリストになりたいと思っています。

おいたち



両親がとても自由に育ててくれたおかげか、小さいころから自分のやりたいことをはっきりと主張する子だったようです。

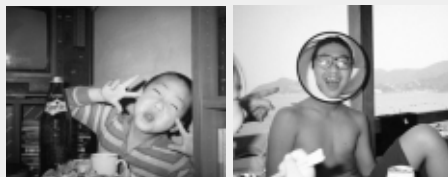
好きなこと／大切なもの



写真はわたしの心を映す鏡だと思います。自分自身を写しても、ほかの人やものを写しても、自分の心の動きが写真に表れるからです。



大石 勘太
おおいし かんた
東京都立新宿山吹高校
3年(17歳)
東京都在住。中学生のころから小説を書いてきました。将来は本格ミステリーにとりくみたいと思っています。ぼくの座右の銘は「昨日と違うことを言う」。最優先させることが時と場合によって変わるのがすてきだと思います。



中学3年生のとき、エラリー・クイーンの『Yの悲劇』を読みました。この小説で、本格ミステリーというものに完璧にはまってしまいました。



高校では演劇部に所属しています。映画でもテレビでも表現できないことを演劇で表現したいと思っています。演劇で何かを訴える必要はない、その時々へのひらめきを伝えたいと考えています。



坂井 未知
さかい みち
北海道標茶町
1年(16歳)
千葉県市川市で生まれ育ちました。今は、寮生活をしながら北海道標茶町にある高校に通っています。わたしは、「生活の中で楽しめることは、楽しんじゃえ!」と考えるほうです。がんこなところもあります。将来は、獣医になって野生動物を保護する仕事をしたいと思っています。



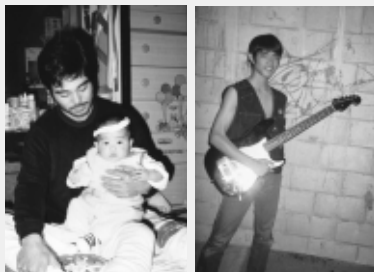
わたし(左)は小さいときから昆虫や動物が大好きでした。中学生のころには学校の図書館にあった動物関連の本をすべて読みました。



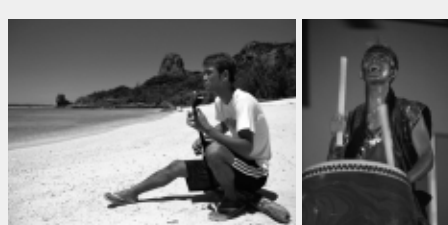
月に2回、酪農を営んでいる同級生の家で週末を過ごし、牛の世話の手伝いなどをします。この牛はとても人なつっこいようです。



玉城 俊一
たまき しゅんいち
沖縄県立南風原高校
3年(17歳)
沖縄県の北部にある伊是名島で育ちました。今は沖縄本島にある高校で沖縄の芸能や歴史を学んでいます。明るい性格。活動的で、やりたいと思ったことはすぐ実行に移さないと気がすみません。音楽が大好きで、将来はシンガー・ソングライターになりたいと思っています。



小学校高学年のころから中学2年までは悪いことばかりしていました。中学2年のときに地元の太鼓グループに入りました。軽い気持ちで入ったのですが、真剣に取り組むメンバーたちに刺激され、ほくも音楽の楽しさに目覚めました。



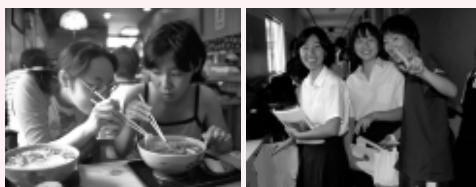
ぼくの生活の中心は音楽です。ギターや三線さんぜんで曲をつくって歌ったり、授業や部活で沖縄の音楽を習ったり、伊是名尚円太鼓のメンバーとして活動したりしています。自分の感性を大事にしなが、ぼくの思いを音楽のなかで自由に表現していきたいです。

わたしの／ぼくの家族



両親と妹、わたしの4人家族です。わたしは自分がであう最初の社会が家族だと思っています。ぶつかりあいを乗り越えて他人との関係をきずいていくための訓練をする最初の社会が家族なんだと思います。

わたしの／ぼくの友だち



わたしには何人かいい友だちがいます。でも、一時期、友人関係でとても悩んだことがありました。そのつらい経験をへて、よい友人関係をきずくために大切なことは、自分に自信をもつこと、そして相手を信じることだと思ふようになりました。

わたしの／ぼくのまち



横浜は日本で2番めに人口が多い都市です。欲しいものは何でもすぐに手に入るし、映画館や図書館、美術館など文化施設もたくさんあって、とても刺激的です。



両親、姉3人、兄2人、そしてぼくの8人家族です。家族は、ぼくに「安定」を与えてくれます。



家族はゆるしあう存在であるのに対して、友だちは認めあう存在。家族より気楽につきあえる場合もあるし、家族のようにはいかない場合もあります。



さまざまなことばと文化を内包する東京は、それ自体が貴重な情報です。ぼくの物語はここでしか生まれません。生涯離れられないであろうぼくのまち、それが東京です。



両親、姉、妹、祖父母、そしてわたしの7人家族です。わたしにとって家族は、「ふるさと」とか「巣」という感じがするものです。家族は、わたしのいいところも悪いところも、すべてうけいれてくれます。



友だちはとても大切です。わたしは家族と離れて暮らしているので、楽しいことや悲しいことを何でも話せる友だちがいるのはとても心強く感じます。



自然が豊かで親切な人の多い北海道標茶町(上)の環境は、わたしにとってもあっていると思います。生まれ育った千葉県市川市(下)は、東京のベッドタウンとして発展する一方、『万葉集』にうたわれる古いお寺などが残っています。新旧が入りまじった魅力あるまちです。



両親と弟5人、ぼくの8人家族です。家族はぼくの大きな支えです。とくに、親元を離れて学費や生活費を仕送りしてもらうようになってから、親のありがたさやたいへんさがわかるようになりました。自分1人で生きているのではないということを実感しています。



うわべではなく本音でつきあえる友だちは絶対に必要な存在です。尚円太鼓のメンバーは、ぼくの成長をあたたく見守り、ぼくが正しい方向に進んでいくように手助けしてくれる、第二の親のような存在です。



ぼくのふるさと伊是名島(上)は人口2,000人の小さな島です。伊是名島の豊かな自然のなかに身を置いていると、心が安らぎます。今は、高校に通うために那覇市(下)のおばさんの家に下宿しています。

主人公

よしだ こうじろう
吉田 功二郎



市川高校(兵庫県)
3年(18歳)

兵庫県姫路市在住。二面性がある、時と場合に応じて、積極的に消極的にもなります。人工的なものよりは自然のほうが好きです。将来は獣医になって野生動物の保護に関わりたいです。

おいたち



ぼくは長崎で生まれ育ち、小学3年生のとき父の転勤で姫路に引っ越しました。長崎とは環境の異なる姫路での生活になかなかなじむことができず、つらい思いもしました。自分で選んだ今の高校に入ってから、ここでの生活になじんできたように思います。

好きなこと/大切なもの



ぼくは犬や猫、鳥、亀などペットをたくさん飼っています。ペットが身近にいるのはぼくにとってとても自然なことです。将来は獣医になって、人間のせいでは傷ついた野生動物を助けたいと思っています。

やまもと たかゆき
山本 隆幸



大阪産業大学附属高校
3年(18歳)

京都市在住。冷静で、前向きな性格です。けっこういちずなところもあります。生まれつき難聴ですが、それを苦だと思ったりはしません。小学3年生のときからずっとアメリカンフットボール(以下、アメフット)をやっています。将来は、社会人リーグの強いチームでプレイしたいです。



小学校でアメフットとであったことが、ぼくの人生を変えたような気がします。アメフットが自分のアスリートとしての才能をひきだしてくれました。また、チームメイトと接するなかで、友だちとのかわりかたやことばのつかいかたなど、多くのことを学びました。



高校のアメフット部でのぼくのポジションは、コーナバック(ディフェンス)です。ぼくがインターセプトをすると試合の流れが大きく変わります。そこがコーナバックのおもしろいところです。

ユウ ユウジン
柳 有真



千里国際学園高等部(大阪府)
3年(18歳)

大阪で生まれ育った在日韓国人3世です。好奇心がおうせいで、興味のあることには寝る時間を惜しんで取りくみます。机に向かって勉強しているよりも、運動しているほうが好きです。将来はスポーツカウンセラーになりたいです。



家では韓国の考えかたで育てられたので、わたしにとって、家のなかは「韓国」、幼稚園や小学校など家の外は「日本」でした。だから、わたしのなかには、ふたつの異なる文化が自然に共存しているのだと思います。



わたしにとって、スポーツをすることは息をするのと同じくらい自然なことです。スポーツは、喜びや悲しみ、緊張感、自分の力不足、チームワークや友だちの大切さ、人を思いやる気持ちなど、多くのことを教えてくれます。大好きな運動と子どもの世話、このふたつが一度にできる「水泳教室の先生」は最高のアルバイトです。

メッセージ



水島 優

みなさんは何を信じていますか。わたしは愛を信じています。恋人だったり、家族だったり、友だちだったり、いろんな人にわたしは愛を感じます。いろんな形だけど、文化が違ってもだれでも共通にもっていることだと、わたしは思っています。「みなさんは何を信じていますか?」。わたしは、それを世界中のいろんな人に聞いてみたいと思っています。



大石 勘太

もしこう、好きな人がいたりしたときに、ぼくは何度もその好きな人にならなくていいなという感じがするんですね。たとえば彼女がちよつとしたことで笑ったり、なんでもないことで怒ったり、ふつにおしゃべりしたり、ていうときに、なんかこう、また別の顔を見たとていう感じなんです。そういう感じがいつも、「でいい」だなんていう感じというか……。まあ、であいなんて言いきな感じはするんですけども……。



坂井 未知

この写真を見て、日本の文化だとか、あと、日常の高校生の生活を知ってもらえたらなあと思います。この写真を見て、北海道のことをもっと知りたいとか、日本のことをもっと知りたいと思ったら、わたしも個人的にお友だちをたくさんつくりたいので、もしよかったらお手紙ください。

日本語を勉強しているみなさん、沖縄はとていいところですよ。もし機会があったら、日本語を勉強して遊びに来てください。ぼくの思いを沖縄のことばで歌にしました。『我んぬ思』、日本語で言うと「わたしの思い」という意味です。どうぞ聴いてください。

わたしの／ぼくの家族



両親、兄、妹、ぼくの5人家族です。ぼくにとって、家族はいつも近くにいるのがあたりまえの存在です。もしいなくなったら、「ぼくはどこに帰ればいいのか」と途方に迷うのではないかと思います。

わたしの／ぼくの友だち



ぼくにとって、友だちは気がねなしにつきあえる存在です。落ちこんでいるときに、悩みを聞いてもらうのではなく、いっしょに騒いだりしているうちに悩みを忘れることができる、そういう存在です。

わたしの／ぼくのまち



ぼくの住んでいる場所(左)から世界遺産に登録されている姫路城の眺めを楽しむことができます。姫路城を中心にいつも活気にあふれているまち、それが姫路だと思います。



両親、姉、そしてぼくの4人家族です。両親は地元の商店街で魚屋を営んでいます。ぼくにとって、家族はいっしょにいていちばん落ちつく存在です。困ったことがあると、いつでも話を聞いてくれます。



友だちは、ぼくのことをよく理解してくれて、困ったときにいつでも助けてくれます。何でも言いあえて、いつでもそばにいてくれる友だちが多いです。



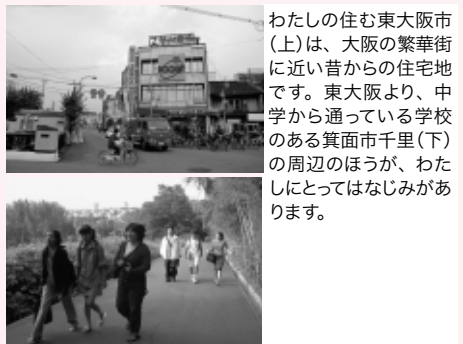
ぼくの家近くの山ばかりで、いなかという感じがしますが、静かだし、古い建物もたくさん残っていて、とてもいいところです。京都は、ぼくがいちばん落ちつくまちです。



両親、姉2人、そしてわたしの5人家族です。家族はあたたかな存在です。みんなスポーツ好きです。



わたしは、友だちといつもベタベタしている必要はないと思います。そのかわり、いっしょにいるときは思いっきり楽しんで、嫌なことを口にしたり顔にだしたりしないようにしています。友だちには、家族とはまた違うあたたかさや優しさがあるって心が落ちつきます。



わたしの住む東大阪市(上)は、大阪の繁華街に近い昔からの住宅地です。東大阪より、中学から通っている学校のある箕面市千里(下)の周辺のほうが、わたしにとってはなじみがあります。



玉城 俊一

歌詞の意味(原詞は、沖縄のことばで書かれています)

押し寄せる波の音を聞いて 波が引くように心が落ちつく
恋をして涙を流したり 忘れられない思いに胸をこがしたり
こんな思いは だれでもみんな同じこと
同じ人間だから壁をつくらずに 兄弟のように生きたいね
青い空と海は いつもぼくたちの心をひとつにしてくれる
天の星々がいつか こんなぼくの思いをかなえてくれると信じてる



吉田 功二郎

日本は四季があつて とてもきれいなところで、一度来てほしい。ぼくのおすすめは秋です。



山本 隆幸

ぼくの生まれたところは京都です。京都はめちゃいいところなので、いつか訪れてください。ぼくは難聴というハンディキャップをもっていますが、がんばってアメリカンフットボールを続けようと思っておりますので、みなさん応援してください。



柳 有真

わたしはちっちゃいときからずっとスポーツを続けてきたので、勉強しているよりも何か動いているほうが好きです。いろいろなことを習うのは、ちょっと大変だと思うんですけど、わたしも受験勉強でいろいろ苦しいこととかつらいこと、いっぱいあるんですけど、そのがんばっている姿を見てほしいです。

1日の生活



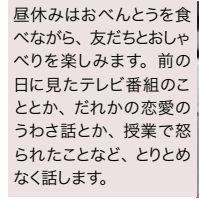
水島優



起きたらまず朝ご飯を食べます。何も食べずに学校に来る友だちもいますが、わたしは朝食をしっかりとりないと、おなかですいて昼までもちません。



鶴見高校は生徒の自主性を重んじてくれる学校です。そういう校風が好きです。わたしがいちばん好きな科目は世界史です。各時代に生きた人々が何を考え、どういう生活をしてたかということに興味があります。



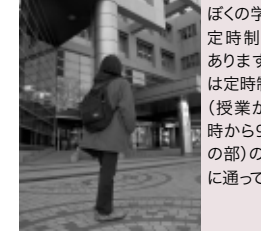
昼休みはおべんとうを食べながら、友だちとおしゃべりを楽しみます。前の日に見たテレビ番組のことか、だれかの恋愛のうわさ話とか、授業で怒られたことなど、とりとめなく話します。



大石勘太



ぼくは姉のマンションに住んでいますが、ぼくが起きるころにはみんな出かけています。今日は10時に起き、チャーハンをつくって食べました。



ぼくの学校には定時制課程があります。ぼくは定時制第4部(授業が午後5時から9時までの部)の情報科に通っています。



単位制の学校なので、生徒が自分で興味のある科目を組み合わせる時間割をつくれます。だから、授業のないあき時間も出てきます。今日は、あき時間に彼女と近くの公園に散歩に行きました。



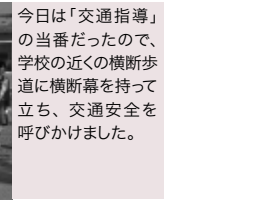
坂井未知



わたしは北海道標茶高校の寮で生活しています。毎朝6時15分ごろ起き、自分の部屋とお風呂、トイレなどのそうじをすませたあと、朝食をとります。



今日は「交通指導」の当番だったので、学校の近くの横断歩道に横断幕を持って立ち、交通安全を呼びかけました。



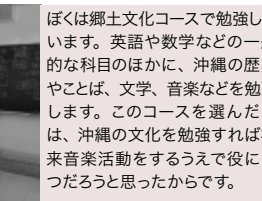
玉城俊一



6月23日は、沖縄戦で亡くなった人々の霊を慰める慰霊の日です。毎年、慰霊の日が近づくと平和を考えるさまざまな活動が行われます。今日はホームルームで南風原高校生の「平和宣言」を読みました。



ぼくは郷土文化コースで勉強しています。英語や数学などの一般的な科目のほかに、沖縄の歴史やことば、文学、音楽などを勉強します。このコースを選んだのは、沖縄の文化を勉強すれば将来音楽活動をするうえで役にたつだろうと思ったからです。



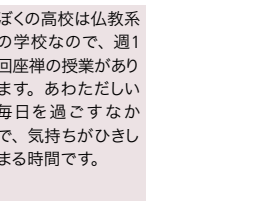
吉田功二郎



毎朝8時過ぎに学校の最寄り駅に到着します。通学に1時間ぐらいかかりますが、友だちとおしゃべりする時間だとわりきって楽しんでいます。



ぼくの高校は仏教系の学校なので、週1回座禅の授業があります。あわただしい毎日過ごすなかで、気持ちがひきまると時間です。



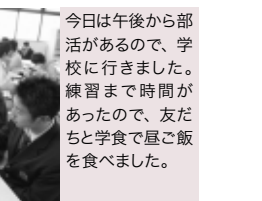
山本隆幸



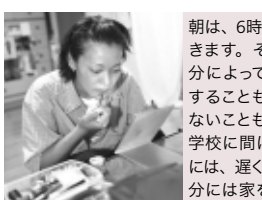
3学期に入ると3年生はほとんど授業がありません。ぼくは推薦で大学が決まって時間があるので、自動車学校に通っています。今は、目前に迫った学科試験の勉強をしています。



今日は午後から部活があるので、学校に行きました。練習まで時間があつたので、友だちと学食で昼ご飯を食べました。



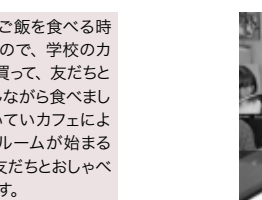
柳有真



朝は、6時くらいに起きます。その日の気分によって、化粧をすることもあればしないこともあります。学校に間にあうためには、遅くとも6時45分には家を出なくてはなりません。



今日は家で朝ご飯を食べる時間がなかったので、学校のカフェでパンを買って、友だちとおしゃべりしながら食べました。朝はたいていカフェによって、ホームルームが始まるまで5分ほど友だちとおしゃべりを楽しみます。

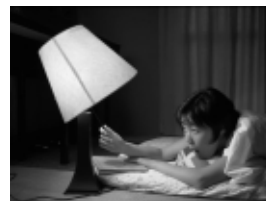




放課後、そうじ当番になっている人は残ってそうじをします。そうじはめんどうなので、15分くらいでさっさと終わらせます。



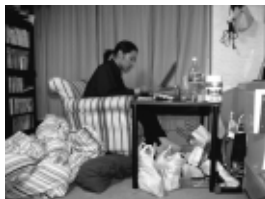
家に帰る途中、ときどきコンビニに寄って雑誌を立ち読みします。おもにファッション誌を読んで、洋服やヘアスタイル、雑貨などの記事をチェックします。



寝るときは、幸せな気分になるようなことを考えます。「今日も1日ががんばったなあ」とか、「明日もいい日になりますように」と心のなかでつぶやきます。



英語の「Writing」の授業。生徒は4人です。英語はあまり得意な科目ではありません。好きな科目は国語です。



演劇部のためのシナリオは夜中に書きます。ワープロを使って、とにかくたくさん文章を書きます。今の彼女に片思いをしていたころは、彼女のことを考えながら短編を書いたりしたこともありました。



夜中の2時ごろ、本を持ってふろに入ります。リラックスできるのでふろに入るのは大好きです。だいたい明け方の4時くらいに眠りにつきます。睡眠時間は平均して6時間ほどです。



標茶高校は総合学科制を導入しています。「産業社会と人間」は総合学科の必修科目です。外部から講師を招いて話を聞いたり、さまざまな仕事の現場を見学したりしながら、自分の将来などについて考えていきます。



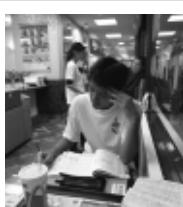
わたしはバスケットボール部に入っています。毎日、放課後2時間ほど練習をします。バスケットボールの作戦を考えるのはとてもおもしろいです。



寮では、毎晩9時から10時まで学習の時間になっています。寮の食堂でみんないっしょに勉強します。



週に2回、放課後に郷土芸能部の練習があります。ぼくは、踊りの伴奏の三線を弾くほか、太鼓を打ったり、踊りを踊ったりします。これまで、沖縄県内を中心にたくさんのイベントに出演してきました。



夜は、喫茶店かマックで勉強します。自分で勉強するのは英語と音楽だけです。将来世界中の人たちにぼくの歌を聴いてもらいたいし、いろんな人たちと話してみたいと思います。そのためにコミュニケーションに不自由しない英語力を身につけたいのです。



いくら考えても悩みごとの解決方法が見つからないときや、寝るのがもったいないと感じる夜は、街に出てストリートライブをします。



ぼくは弓道部の部長をつとめています。放課後2時間くらい練習します。28メートル離れた的に矢を当てるには、心の鍛錬が不可欠です。弓を引くときに精神を集中させなければいけません。そこに魅力を感じます。



学校帰りに友だちと、マンガ、文庫本、CDの中古専門店に寄り道しました。マンガやCDが新品の半額以下の格安な値段で手に入るので、限られたこづかいしかもっていないぼくにはうってつけの店です。ちなみに、こづかいは1か月4,000円です。



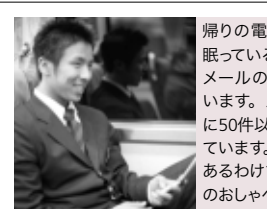
寝るまえにアロマテラピーでリラックスします。観葉植物やドライフラワーのある部屋で、いい香りをかきながらゆったりしていると落ちつきます。



アメフト部の練習は、試合の翌日と試験期間をのぞいてほぼ毎日あります。チームメイトどうしの仲がいため、厳しい練習も楽しく感じます。ぼくはいつも、「うまくなってやる」と思いながら練習しています。



部活のあと、友だちとアメフトショップへ行きました。時間があるときは、心齋橋のアメリカ村に服を見に行くこともあります。ぼくは安くいいものを見つけるのが得意です。



帰りの電車では疲れて眠っているか、友だちとメールのやりとりをしています。メールは、1日に50件以上やりとりをしています。とくに用事があるわけではなく、ふつうのおしゃべりみたいな感じですが。

吹奏楽の授業です。わたしはフルートを担当しています。わたしの学校は各学期ごとに単位を認定する単位制になっていて、生徒が自分の興味や意欲にあわせて科目を選択することができます。



スクールカウンセラーの先生に進路の相談をしているところです。先生はわたしがもっとも尊敬する人です。きれいで、優しく、いつも冷静で的確なアドバイスをくれます。先生にあげられて、カウンセラーになりました。



放課後は予備校に行って勉強し、9時30分すぎに家に帰りつきます。ご飯を食べたら、1時間ほどポットとしてから、受験関係の資料を見たり、宿題をしたりして、2時ごろおふろに入ります。それから日記をつけて、たいてい3時ごろ眠りにつきます。



「であい」を成長型教材に

東京学芸大学教授 佐藤郡衛

写真教材「であい」は、7人の高校生の素顔と日常生活を写真とテキストで表現したものである。もともと海外の外国語としての日本語教材として開発されたものだが、日本国内の学校でもこの教材を使って多様な実践ができる。それはこの教材が次のような特徴を持っているからである。

第1は「人間理解」と「文化理解」の視点のユニークさである。私たちは往々にして社会的・文化的背景から個人を理解しがちだが、この教材はまず個人に焦点化し個人を通して社会的・文化的背景を理解するという手法をとっている。抽象化された人間ではなく、生身の「個」が描かれており、その「個」に特有の社会的・文化的背景を知ることができるようになっている。

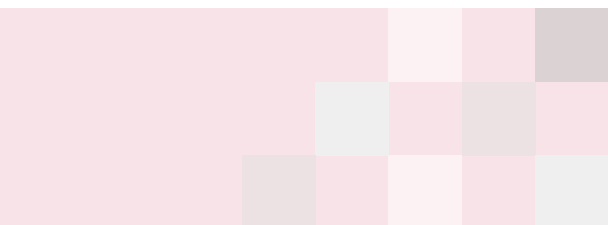
第2は教材開発の過程に特徴がある。従来、教材開発は、より多くを知っている専門家が未熟な人に対して教えるための道具の開発という意味合いが強く、権威関係が前提になっていた。この教材は開発者である国際文化フォーラムのスタッフが7人の高校生と直接会い、相互のかかわりの中で信頼関係をつくり共に教材をつくりあげてきた。スタッフが高校生の傍らにすわり、彼らが感じている悲しみ、悩み、戸惑いなどをそのまま受け止め、共に考えたり、彼らに彼ら自身のよさを気づかせ、それを引き出したりしている。そうした姿勢が7人の写真やキャプションの随所に表れている。

第3の特徴は教材の柔軟性にある。この教材は固定した知識の習得や特定の授業のためにつくられたものではなく、実践者の自由な発想にもとづく授業づくりや多様な学習活動に活用できるようにつくられている。いわば、実践者の多様な授業づくりにいかよ

うにも対応できるようになっている。だが、柔軟性に富む教材は実践者にとり負荷が高いものになる。この教材を国内の学校で活用するには、教材の趣旨を示していくことと同時に、多様な実践事例を集積し提供していくことが必要である。

ではこの「であい」教材を活用してどのような実践が可能だろうか。いくつか例示してみよう。第1は「自尊感情」や「自己肯定観」を育成するための取り組みが考えられる。まず生徒自身が7人の高校生の写真やテキストに触れ、自分が共感できる人物を選び出す。そして、どこに共感したかを、自分と比較しつつ記録する。次にその記録をもとにクラスの中で同じ人物に共感した人とどこに共感したか、なぜ共感したかについて対話するといった取り組みである。自分のよさに気づき、自分をよりよく知ることができるような学習活動を行ったらどうだろうか。

第2は多様性を理解するための取り組みである。この教材はCD-ROMの写真データベースが利用できるようになっている。これを現代社会、倫理社会、公民、家庭科などの教科、あるいは総合的な学習に活用したらどうだろうか。写真データベースから、「家族」「進路」「クラブ活動」、あるいは「悩み」「夢」などの学習テーマ、さらには「ジェンダー」「地域」など、属性ごとに写真を取り出し、7人の差異や共通性についてグループ討議、バズ・セッションなどの活動を行う。その上で、クラス共通のテーマを設定し、差異や共通性について明らかにしていく。多様性というどうしても外国や他民族についての学習が中心になるが、身近なところからスタートすることでよりリアルに差異や共通性を受け止めることができるし、身近な差異を認め許容することができるようになる。



第3は国際理解教育の一環としての活用例である。近年、姉妹校提携を行う学校が増えているが、交流の導入段階で日本の高校生や学校生活を紹介する材料としてこの教材を活用することで交流に弾みがつく。交流が軌道にのれば交流校同士で、この教材のように各学校で主人公を選び、同じような手法で日常生活を紹介しあうといった取り組みに発展させていくこともできる。それをホームページ上に公開(むろん公開できる範囲で)していけば多様なリソースが蓄積していく。

第4は直接的な活用例ではないが、国際文化フォーラムがこの5年間にわたり実施してきた「高校生の生活フォトメッセージコンテスト」(高校生自身に自分たちの素顔や日常の生活を写真で紹介する取り組み。右コラム参照)と関連付けることも面白い。限られた枚数の写真で友人を紹介するため、友人を深く知る必要があるし、今まで知らなかった面も見えるようになる。カメラのファインダー越しに友だちを見つめ続けることで、友だちを理解するだけでなく、自分を見つめることにもなる。写真に限らず、絵や文章でも同じような取り組みが可能である。こうした取り組みは人とかかわる力を育てていくことになる。

以上は例示にすぎない。この教材は開かれたものであり、実践者が多様な取り組みをウェブ上で共有していくことで成長していくものである。この「であい」はいわば成長型教材であり、開発者と実践者が共に実践を共有し育てていくことでより一層価値あるものになっていくであろう。

「高校生の生活フォトメッセージコンテスト」



昨年度(第4回)のコンテストの最優秀作品。

TJFは1997年から毎年、「高校生の生活フォトメッセージコンテスト」を実施しています。このコンテストの趣旨は、日本の高校生が何を考え、どんな毎日を送っているのかを、高校生自身が写した5枚の組写真と文章(メッセージ)で、国内外の同世代の若者に伝えることです。身近な友だちの暮らしや個性をカメラのレンズを通して見つめなおしてもらい、その過程で気づいたこと、感じたこと、作品を通して伝えたいことを、自分のことばでメッセージとして表現してもらいます。応募作品の写真には、友だちだからこそ写せる自然な姿があふれ、またメッセージからは、考えたり悩んだりしながらも夢を実現しようと努め、友だちや家族を思い、社会にかかわろうとする高校生の姿が伝わってきます。TJFでは、これらの写真やメッセージを、写真集やホームページを通じてコンテストの参加者をはじめ、海外で日本語を学ぶ中高生や国内外の教育関係者などに届けています。

本誌p. 16に掲載しているシリーズ「素顔の高校生」では、同コンテストに参加し入賞した撮影者を毎号一人ずつ取り上げています。撮影者の作品づくりに対する思いや被写体との関わりなど、さまざまな高校生の素顔をインタビューをもとに紹介しています。

村野良子(学習院大学教授)

こんな授業ができます!

わたしのれきし

自分の人生の中で大切な節目にあたる出来事を振り返る。「であい」の主人公のおいたちの写真を観察し、彼らにとって大切だった出来事、通過儀礼、行事などを知る。ある文化の中で大人になることについて考える。(使用する文型:〜のとき、〜ています、〜ました)

① この授業は10時間から成る授業案の一部です。授業案全体では、日本の年中行事、通過儀礼、学校行事について調べ、自分たちの年中行事などと比較します。さらに、日本人学校や日本人コミュニティを訪問し、年中行事などについて調べたり、参加したりします。

	私	やまもと たかゆき	ゆう ゆうじん
0歳	うまれました。	おとうさんとおふるにはいっています。	
1	あるきました。		
2			いっさいのとき、おいわいをしました。トイレをつかっています。
3			
4		おもちをつけています。	
5		いもほりをしています。	
6	がっこうにはいりました。		しょうがっこうにはいりました。うれしそうです。
7	はじめてうみをみました。		
8			
9			
10			
11			
12	ピアノのコンクールでしょうをもらいました。	ちゅうがく1ねんのとき、つりをしています。	
13		ちゅうがくのとき、バスケットボールぶにはいりました。	ちゅうがくのとき、うんどうかいで一ばんになりました。
14		ちゅうがく3ねんのとき、アメフトのMVPになりました。	
15			
16	車をうんでんしました。		
17	日本にいきました。		

「わたしのれきし」ワークシート

北川逸子(元オーストラリア・クイーンズランド州教育省日本語教育アドバイザー)

こんな授業ができます!

クラブ活動と将来の夢

7人の主人公の文章を読み、彼らの将来の夢を知る。その夢と、クラブ活動との関係を考える。(使用する文型:〜しようとおもっています)

① この授業はクラブ活動をテーマにした授業案の一部です。授業案全体では、クラブ活動に関する写真を観察したり、関連する日本語を学習したりして、日本のクラブ活動に対する理解を深めます。

	将来の夢	理由	クラブ活動との関係
水島優	ジャーナリストになると思っています。	写真が大好きだからです。	今やっているクラブ活動と深い関係があります。
大石勲太	ミステリー作家になると思っています。	文章を書いたりするのが好きだからです。	クラブ活動と関係があるかどうか、わかりません。
坂井未知	獣医になると思っています。	動物や虫が大好きだからです。	クラブ活動と関係がありません。
玉城俊一	シンガー・ソング・ライターになると思っています。	音楽が大好きだからです。	クラブ活動と関係があるかどうか、わかりません。
吉田功二郎			

「クラブ活動と将来の夢」ワークシート

TJF

こんな授業ができます!

友だち・まわりの人びと

俊一とまわりの人びととの人間関係を観察し、玉城俊一がいろいろな人から影響を受けていることを考察する。俊一の人間関係図を参考にして、自分とまわりの人びとの関係や、自分が受けている影響などをふりかえる。

しゅんいちとまわりの人びと

しゅんいちとまわりの人びとのかんけい

次の1〜3は、しゅんいちとまわりの人びとの関係についての文です。しゅんいちの写真のキャプション、マイ・ストーリー(英語)を読んで、その内容と合うように()の中に、日本語のこぼをいれましょう。日本語は、下の□からえらんでください。また[]の中から適切なことばをえらんで、○をつけましょう。

- はやとは 高校で ぼくと おなじクラスで おなじクラブの ともだちです。さんしんを ひくのが じょうずです。ぼくとは はやとは、いい()です。ぼくが なやんでいるとき、はやとは いいアドバイスを {あげます/もらいます/くれます}。そして はやとは、ぼくが わるいことを したとき、おこって {あげます/もらいます/くれます}。ぼくは 学校をやめたいと おもったことが ありますが、はやとが いたから がんばることが できました。
- こーた*は おなじクラブの こうはい です。おきなわの おどりが じょうずです。ぼくは ときどき ぶたい(stage)について こーたに アドバイスをして {あげます/もらいます/くれます}。ぼくにとって こーたは かわいい()のようです。
*主人公が使っている表記を使用しました。
- ぼくは、中学2年生のとき、いげなで たいこの()にはいりました。たいこのなかまは ぼくにとって「第2の()」であり かけがえのない(irreplaceable)ともだちです。としかずさんは、たいこグループの()で、ときどき()ことを います。テールは ぼくに ギターを おしえて {あげました/くれました/もらいました}。テールと たいこを たたくのは とても()です。

おや おにいさん おとうと リーダー グループ ライバル やさしい きびしい たのしい つまらない

「友だち・まわりの人びと」ワークシート1
課題:○のなかにしゅんいちをきりとり、はりましょう。

「友だち・まわりの人びと」ワークシート2



3年目に入って多角化するネットワークの活動

——高等学校韓国朝鮮語教育ネットワークの現在

昨年11月、大阪森ノ宮で高等学校韓国朝鮮語教育ネットワークの第1回全国研修会が開催されました。地元関西を中心に、東北・関東・甲信越地方から約20名、九州・中国地方から約10名を含む計65名が参加しました。研修会のようすと、その後のネットワークの活動について報告します。

ネットワークが主催した初の全国研修会

1998年の第1回高等学校韓国語教師研修会で出会った高校教員が中心になって、99年に高等学校韓国朝鮮語教育ネットワークを立ち上げました。その後2年余りでネットワークの会員は約100名に。うち約8割がメーリングリストに登録され、メールで近況を伝えながら、日常的に意見交換をはかっています。

全国研修会の前身は、韓国文化院とTJFの共催で98年から3年間、毎年8月に開催された高等学校韓国語教師研修会です。この研修会が昨年からネットワーク主催、TJFの後援で実施されることになり、昨年11月に第1回を開催しました。今後、東日本・西日本・南日本の3ブロックで順々に開催します。

開催時期を11月にしたのは、天理大学と神田外語大学で開講している韓国朝鮮語の高校教員免許取得のための夏期集中講座と重ならないようにするためです。

西日本ブロックが主催した初のネットワーク全国研修会の会場には、70年代初めから兵庫や大阪の高等学校で教育実践を積み



第1日目午後のセッションで「教科書」の草案の報告を聞く参加者。

上げてきた「在日」教員の熱気が溢れていました。1日目の深夜にかけて約30名の教員が熱っぽく議論を交わすなかで浮き彫りになったのは、「在日」「韓国人」「日本人」それぞれが持つ「隣語」に対する思いでした。

全国研修会のプログラム

11月23日(金) 大阪市立労働会館

- 13:00～ 開会、主催者あいさつ
- 13:30～ 各ブロックの活動報告:西澤俊幸(長野県)、李菊枝(イ・グッチ、広島県)、任喜久子(イム・ヒグジャ、大阪府)、李貞栄(イ・ジョンヨン、大阪府)
- 15:45～ 天理大学と神田外語大学の特別講座について:秋賢淑(チュ・ヒョンスク、東京都)、方政雄(パン・ジョンウン、兵庫県)
- 16:20～ 「学習のめやす」に依拠した教科書の草案:【報告】長谷川由紀子(奈良県)【司会】任喜久子、康龍子(カン・ヨンジャ、大阪府)
- 19:30～ 夕食・交流会

11月24日(土) 大阪府立青少年会館

- 9:00～ 授業実践報告と意見交換:山下敏裕(鹿児島県)、武井一(東京都)、梁千賀子(ヤン・チヨナジャ 兵庫県)
- 11:30～ ネットワークの今後:【司会】方政雄
- 12:30 閉会
- 13:00～ フィールドワーク:猪飼野コリアタウン

ネットワーク活動の多角化

全国の会員が出会うたびに「うねり」のような熱気が高まるのは、ネットワーク各ブロックの日常活動があるからです。韓国と日本の高校生どうしの交流や教師研修プログラム、高校用の交流語彙集や教科書づくりなど、ネットワークの活動は多角化しています。

昨年从天理大学と神田外語大学で開講されている夏期集中講座、日韓文化交流基金の日韓青少年交流ワークショップなど、大学や関連団体と連携した事業を展開するようになりました。また、



韓国の国際教育振興院や韓国国際交流財団などが、昨年の後半から日本の高校における韓国朝鮮語教育に注目して、昨年からはまった高校生のソウル研修や今年度から実施する予定の韓国での教員研修など、複数のプログラムに関心を寄せています。

西日本ブロックの「教科書」づくり

昨年11月の全国研修会で『学習のめやす』に依拠した教科書の草案が発表されました。同草案は今年から試験本として使用されることになっており、ネットワークの西日本ブロックでは2003年度からの本格的な使用に向けて白帝社(出版社)ほかの協力を得ながら編集作業を進めています。「在日」教員が多い西日本の歴史と地域性を大事にしながら、全国的に使用できる教科書を制作したいと考えています。

東日本ブロックの交流プログラム

韓国朝鮮語を学んでいる高校生と担当教員(計28名)が、韓国国際教育振興院の招聘で昨年12月にソウルを訪問、韓国の歴史や文化を学びながら、ことばの勉強をしました。4泊のうち1泊は漢栄(ハニョン)外国語高校の生徒の家にホームステイ(韓国では「民泊[ミンパク]」と呼ぶ)するなど、高校生も教師も多くを学びました。今年度から全国規模の事業展開を考えています。

3月9日と10日、昨年初めて実施した日韓青少年交流ワークショップ(韓国朝鮮語を学ぶ高校生と東京韓国高校の生徒による合同合宿)の2回目

が神奈川県野島で実施されます。高校生向けの韓国朝鮮語の脚本づくりや昨年作成した「高校生のための交流語彙集(試験本)」の改定作業も進んでいます。

2002年は南日本ブロックの年

昨年からは南日本ブロックで試験的に運用しているネットワークのホームページを本格的に稼働させるため、授業記録や教材を会員間で共有化する作業が進んでいます。

昨年12月のソウル研修(国際教育振興院の主催)には鹿児島県の高校生3名も参加しました。今年度からは時期や訪問地をブロック独自に定めて実施していく予定です。2002年は南日本ブロックの年、全国研修会を11月に鹿児島県で開催する予定です。フィールドワークは沈寿官(シムスグァン)陶苑を計画しています。

TJFの2002年度事業

TJFではネットワークの協力を得て、2002年度に高校教育における韓国朝鮮語の意義について調査する予定です。前回の調査は実施(または予定)校だけを対象にしましたが、今回はすべての高等学校を対象にします。

また、大学教育関係者の協力を得て、大学の韓国朝鮮語教育に関する調査を並行して実施する計画です。高等学校と大学の調査をあわせて実施することで、韓国朝鮮語教育の新たな可能性をきりひらきたいと考えています。

(小栗章)

事業報告(2001年10・11・12月)

- ※ 第5回高校生の生活フォトメッセージコンテスト作品募集(～2002年1月10日)
- ※ 中国初等中等教育における日本語教育事情調査(～2002年3月)
- ※ 中国日本語教科書編集協力(継続)
- ※ 高校中国語教科書編集協力(継続)
- ※ 「であい」プロジェクト(継続)
- ※ Japan 2001写真展・コンテスト開催協力(～2002年3月、英国)
- ※ 全国中国語教育協議会主催教員セミナー開催協力(10・11・12月)
- ※ 『国際文化フォーラム通信』第52号発行(10月)
- ※ 『小溪』No. 11発行(10月)
- ※ 『ひだまり』第9号発行(10月)
- ※ 平成13年度日本語教育学会秋季大会助成(11月)
- ※ 中国語教員免許プロジェクトチーム会合(主催、11月)
- ※ 第1回東海地区高校生中国語発表会(後援、11月)
- ※ 第6回近畿地区高等学校中国語弁論大会(協賛、11月)
- ※ 高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク第1回全国研修会(助成、11月)
- ※ 「であい」関連セッション・ワークショップ開催(於:ACTFL[全米外国語教育協議会]年次総会/於:WAFLLT[ウィスコンシン州外国語教師会]年次総会/於:オレゴン州ポートランド市、11月、米国)
- ※ '01いっくら日本語スピーチコンテスト後援(11月)
- ※ 第10回近畿地区高等学校中国語教育研究大会(助成、12月)
- ※ The Japan Forum Newsletter No. 23発行(12月)

素顔の高校生——10 のびのびと自由に 撮っていききたい。

中才知弥さん(大阪府立大手前高等学校定時制課程)

高校に入るまで、ほとんどカメラを手にしたことがなかった中才さんが、写真を撮るようになったのは、高校に入ってすぐのクラブ紹介で、写真部に興味をもったからです。映画が好きだった中才さんは、映像に対する関心も深かったのでしょう。写真に熱中するようになったのは、写真部にモデルとして所属していた森さんとの出会いです。どちらかと言えば人見知りするタイプの中才さんのために、写真に撮られることが大好きな森さんは、すすんで被写体になってくれたのです。それからというもの、森さんを追いかけて、カラー、モノクロ問わず、何本撮ったか知りません。

そんなある日、写真部の顧問の先生からTJFの写真コンテストの話聞き、「5枚なんて簡単」と思って応募することにしました。ところが、いざ撮ってみると、そう簡単には行きません。家庭での様子を撮ろうと彼女の家に泊まり込んだり、働いているところを撮ろうと仕事場に押しかけたり、撮られることをいやがる彼氏とのツーショットを何とかものにした

りと。その努力のお陰でしょうか、中才さんは「この5枚組で彼女に近づけることができた」と確信できるようになりました。

5枚の写真のうちでもとりわけ審査員をはじめ関係者の注目を集めたのは、2枚の写真アルバムに張って写したものです。左側はモデルになってみんなに囲まれて嬉しいっぱいの森さん、右側は彼氏とケンカして悲しんでいるときの森さん。この2枚の対比が見事だったこと、それをさらにアルバムに張って写したというアイデアが冴えていました。中才さんによれば、このアイデアを思い付いたのは、5枚という枚数制限のなかで、どうしてもこの2枚を入れたかったからだそうです。

「人物を撮る楽しみは、撮ったあとで感想を聞けることです。喜んでくれたり、いろいろな反応があるので嬉しい。これからも写真を続けていききたいと思っています」と語る中才さんは、「のびのびと自由に撮っていききたい」と、自分のペースを大事にすることも忘れません。

文:吉田忠正

TJFが主催する「高校生の生活フォトメッセージコンテスト」の参加者にお話をうかがい、いつの間にか私たちの間に定着してしまった“今どきの高校生”のイメージを変えてくれる、ちょっとイイ話を毎号お届けします。



(上)5枚組の作品より。(下)授賞式にて。左が中才さん。右が森さん(撮影:北郷仁)。

中才知弥(なかさい・ちや)さんのプロフィール
大阪府大東市に生まれる。16歳。趣味は映画と映画音楽の鑑賞。大切にしたいものは、自分の意思、意見、考え。好きなことはとことんやるが、嫌なことはできるだけしない。自己中心的な人間だと思ふ(本人の弁)。

編集後記

去年の4月、「であい」の主人公全員を東京に招待した。3年がかりで取り組んだプロジェクトは、文字どおり7人の出会いでクライマックスを迎えることとなった。それぞれに「であい」に関わった連帯感ゆえか7人はたちまち親しくなり、Eメールアドレスを交換しながら別れを惜しんでいた。別れ際、功二郎が「これで終わると思うと寂しいなあ」とつぶやいた。嬉しかった。優は「フォーラムの人がいつもきちん」と対応してくれたので安心してやれた。最初は迷ったけど、この話を引き受けてよかった」と言ってくれた。ほっとした。7人との出会いを通じていろいろなことを学ばせてもらった。本当にみんなありがとう。おかげさまで「であい」が完成しました。

この教材の成否は、どれだけ私たちが主人公一人ひとりのパーソナリティを引きだせるかにかかっていると思っていた。プライベートな生活場面を撮らせてもらわなければならず、受験を控えていた主人公も多かったのが神経も使った。それぞれの家族の方たち、学校関係者など多くの方々の了解と協力を得ることも大切な仕事だった。

写真が物をいうだけに、主人公たちの自然で生き生きとした姿をどのようにレンズに収めるかがポイントだった。彼らが自然体で撮影に臨めるように、カメラマンもなるべく主人公と関係のある人や年の

近い写真を専攻する大学生に頼んだ。やらせの写真は一枚もない。生活場面も自然のまま、写真に登場しているものもたまたまあったものだ。計1万枚以上にのぼる写真のなかから、主人公の人間性が表現されているもの、文化事象をうまく表象しているもの、言語表現学習に適しているものを最終的に選んでいった。写真の肖像権の問題もあり、ウェブでの掲載も含め随時法律の専門家に対策を相談した。

この教材の最大の特徴は、7人を理解する素材として写真やテキストを独立させた点にある。素材は完成したけれど、これを教材として使っていくプロセスはこれから始まる。メディアとしてのウェブの特徴を十分に活用し、教材化していく際に必要となるものを多様な教育現場に対応しながら随時提供していくと同時に、ネットワークを通じてユーザーとともに作りあげていくプロジェクトが続く。「であい」は多様な文化やことばの学習のために開発された教材である。しかし「であい」に込められたメッセージは、自分が自分であることを大切にしながら、自分が出会う他者との関わりを深めていく一対一の人間の対話こそ人間の普遍的なテーマであるということである。7人がこれからどんな対話を国内外の同世代とするのか楽しみである。

中野佳代子

財団法人 国際文化フォーラム
THE JAPAN FORUM
(TJF)



国際文化フォーラム通信53号
2002年1月発行

発行人 高崎孝

編集人 中野佳代子

デザイン・DTPオペレーション 財団法人国際文化フォーラム
フォーマット設定 鈴木一誌

出力・印刷・製本 近代美術(株)

校閲(有)天山舎

財団法人 国際文化フォーラム

〒163-0726 東京都新宿区西新宿2-7-1
新宿第一生命ビル26階
TEL 03-5322-5211 FAX 03-5322-5215
E-mail: forum@tjf.or.jp
http://www.tjf.or.jp/